

『成長させてくださったのは神です。』

新約聖書：コリントの信徒への手紙(1) 3章6節

佐賀県には、あちこちに広い田んぼがありますね。いよいよ待ち望んだ、刈り入れが始まっています。秋晴れの空のもと、育まれた見事な実りが広がる大地を見ながら、心地よさを感じています。

思えば 6 月、田んぼに植えられたばかりの若緑色の稲の苗は、か細く小さな姿かたちでした。その後、夏の太陽の光をいっぱい受け、水と土の中から栄養を吸い上げながら、ドンドン生育が進み、背丈が伸びて、茎の数も 10 本ほどに増えてゆきました。そして茎の間から穂が出そろって、籾の中で「米」がふくらみ、立派な稲穂に育ちました。

みの ころべ た いなほ
「実るほど 頭を垂れる 稲穂かな」



雨風や暑さに負けず、上に向かって真っすぐに伸びた稲、いまや立派に成長して、たくさんの実をむすびました。稲が米を実らせると、米の重みで、てっぺん頭の部分が垂れ下がってきます。その稲穂の様子が、頭を下げてお辞儀をしているように感じ取った一句でしょう。成長するほどに頭をさげる稲。あたかも、自分の力の外に注ぐ力によって、成長させてもらったのだと知っているかのように。「成長させてもらう」。成長した稲穂と、

成長した人のあり方が重ねられているのだらうとも思います。

幼子たちは成長しています。グングン身体が大きくなってきました。たくさん食べて、たくさん寝て。

この成長には、「稲自らの努力に加えて、与えられた恵みの力があつた」、これを、天来の恵み、いのちへの励ましと、心に収められるようにと願っています。さあ、みんなで、おいしくいただきましょう。

身体だけではありません。心身の成長、つまり、心も成長中！です。いろんな経験を重ねて、喜びや嬉しさをたくさん感じて考えて、たくさん、ありがとうの心が育まれています。

様々ないのちが成長するために、不可欠な天来の恵みを日ごとに注いでくださる神様の励ましを知り、欠かしてはならぬ、人生の良知と体得してゆきたいと祈っています。さあ、子どもだけでなく、大人も一緒に、感謝していただきましょう。

(チャプレン 白川道生)